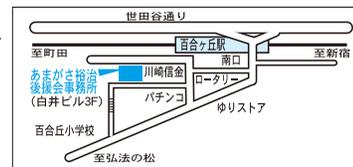




発行所/ 民進みらい川崎市議会議員団事務局  
〒210-8577  
川崎市川崎区宮本町1番地 川崎市役所第二庁舎内  
TEL:044-200-3355 FAX:044-245-4135

百合丘事務所 〒215-0011  
川崎市麻生区百合丘1-20-7 白井ビル3F  
小田急線百合ヶ丘駅下車徒歩1分  
TEL・FAX:044-955-2417  
メール: amagasa-@khaki.plala.or.jp



ホームページ: <http://www.e-amagasa.net> Facebook、ツイッターでも情報発信しています。

# 地下鉄3号線延伸による 麻生区のまちづくり

横浜市営地下鉄3号線  
延伸による  
麻生区のまちづくり

## あまがさ裕治の取り組み

2016年4月7日	<b>国土交通省、交通政策審議会の答申発表</b> 「横浜市と川崎市にまたがる路線であるため、事業化に向けて両市が強調して、費用負担のあり方や事業主体等を含めた事業計画について、合意形成を進めるべき」
2016年4月8日	<b>あまがさ、国交省鉄道局都市鉄道政策課長にヒアリング</b> 「横浜市営地下鉄3号線延伸は実現性の高い路線」と評価
2016年11月7日	<b>あまがさ、横浜市長に事業着手宣言を要望</b> 横浜市の今後の動向を調査、「市長自ら事業実施に向けた宣言をすることが、川崎市の協調体制を促す」と横浜市に要望
2016年12月6日	<b>あまがさ、川崎市長・副市長宛に経緯を示した要望書提出</b> あまがさの調査をもとにこれまでの経緯を整理し、「来年は重大な局面に入る」と、川崎市長・副市長宛に要望書提出
2017年1月7日	<b>横浜市長、事業着手を宣言</b> 「横浜市長、新年度から事業費や需要見込みなどの試算に着手する方針」(読売新聞)と報道。調整が実り、横浜市トップからのメッセージが出される
2017年1月31日	<b>横浜市、1億1千万円の調査費計上を公表</b> 横浜市の予算発表記者会見で、林・横浜市長は「私自身、川崎・福田市長に両市の連携で取り組んでいくようお願いしている。必ず実現したい」と延伸実現への強いメッセージとともに、事業候補者として交通局1億円、駅整備など都市整備局1千万円の調査費計上を公表
2017年2月28日	<b>川崎市、1千万円の調査費予算計上を公表</b> 民進党の市議会代表質問に、まちづくり局長「2017年度予算に横浜市境から新百合ヶ丘駅までの新線に伴う駅周辺のまちづくりなどの調査費1千万円を計上」と答弁
2017年3月8日	<b>川崎市長、「横浜市は2019年3月までに事業化を判断するので、連携して、しっかり取り組む」と答弁</b> 予算審査特別委員会でのあまがさの質問に対して「2017年度から横浜市交通局が事業候補者として、鉄道事業者の視点で事業性等を検討、18年度末までに横浜市として事業化判断を行うと聞いている。川崎市も横浜市と連携してしっかりと取り組む」と交通政策室が答弁

川崎市と横浜市の  
早期合意形成のため  
意見をお聞かせください

福田・川崎市長にも  
選挙公約実行を求めています

福田市長は2013年の選挙で、自分の公費ポスターに「横浜市営地下鉄3号線の延伸」を記載、特記しています



川崎市議会議員  
**あまがさ 裕治** ゆうじ

2016年4月に交通政策審議会の答申が示されて以降、横浜市に対して横浜市営地下鉄3号線事業実施に向けた宣言を横浜市長から宣言することが、何よりも川崎の協調体制を促す重要事項であるとして、説得を続けてきました。

2016年11月7日、横浜市側の今後の動向を調査するとともに、「トップの宣言」についての要望を行いました。

12月6日、川崎市長・まちづくり局長に対して、これまでの一連の過程を説明し、「来年、重大な局面に入る」ことを申し入れるとともに、福田・川崎市長、副市長あてに、経緯を示した要望書を提出いたしました。

このような調整が実り、林・横浜市長は、2017年1月7日の読売新聞年頭インタビュー「両市で費用負担のあり方などを協議し、合意形成を進めるべき」と述べ、さらに1月31日の定例記者会見において、「横浜市と川崎市の両市の発展には重要なものだと考えている。交通局が事業候補者として、鉄道事業者の視点で調査、都市整備局では駅前広場などの交通基盤の検討を行う」「私自身も川崎市の福田市長に両市の連携で取り組んでいくようお願いをしている。必ず実現したいと願っている」と語りました。横浜市では、交通局調査費として1億円、都市整備局の調査費として1千万円が計上されました。

同時に川崎市も総合交通計画推進予算として横浜市市境から新百合ヶ丘駅までの区間の駅周辺のまちづくりなどの調査費に1千万円の予算が計上し、両市の協調体制を作り上げることとなったのです。

川崎市では現在、横浜市と強調して進むための工程表の作りだしを行い、横浜市と重複なども整理の上、効率的に判断しながら、川崎市の独自調査に入れるように取り組んでいます。

年初よりお願いをしています市長への要望書は、おかげさまでわずか2か月で1000筆を超えました。現在、区内を中心とした多くの団体が、必要な予算を求める要望書への署名活動を行っています。どの団体の署名でも構いませんので、皆様の意志のあるところを表明しましょう。

皆様の思いを  
訴えていきます

市長への要望書に  
ご協力ください

ホームページから要望書がダウンロードできます。

今回の麻生通信では、福田市長に横浜市営地下鉄3号線あざみ野～新百合ヶ丘の延伸を促進させるために、皆様とともに訴え、要望を提出していきたいと思っております。

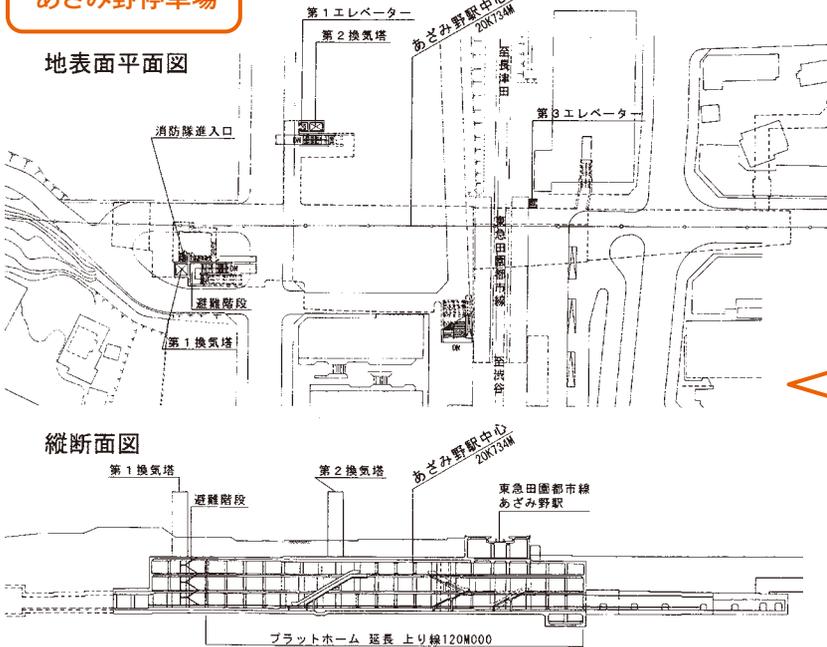
市長へ要望するために、趣旨に同意する署名欄に住所、氏名をお書き頂き、上記事務所までお送りください。

【署名は要望書以外には使用いたしません】

FAX.044-245-4135

# 予算特別委員会でのあまがさの質問に対しての一問一答

## あざみ野停車場



仮に小田急線をまたがずに新駅を地図に落とし込むと、**このようなイメージ。**  
あざみ野駅の構造をみても小田急線との交差は困難!

※駅に大きさを示すもので位置の確定ではありません。

できるだけ住宅密集地を通らないように10m幅以上の道路の下を通るルートを想定してみました。



新百合ヶ丘から	現行(乗換あり)	開通後(乗換なし)	新駅
あざみ野	約36分	約11分	新駅
新横浜	約40分	約26分	新駅
横浜	約50分	約40分	横浜

## あまがさ裕治の27年間の取組

### 「川崎市は横浜市と連携してしっかりと取り組む」

あまがさ ▶ 2017年2月の代表質問で市長が示された「しっかりと取り組む」の意味は、横浜市と協調し、スピード感をもって臨むという決意であるととらえている。その通りですね。

市長 ▶ 平成29(2017)年度から横浜市交通局が事業候補者として、鉄道事業者の視点で事業性等の検討の深度化を図り、30(2018)年度末までに横浜市としての事業化判断を行うことになったと聞いている。川崎市としても、横浜市と連携してしっかりと取り組んでいく。

### 「新百合ヶ丘新駅は今後具体化。あざみ野駅は約5,500㎡」

あまがさ ▶ 新百合ヶ丘新駅に要する最低面積要件は、地下鉄1車両約18mが6両入るホームの長さ約150m。ホームと線路2線の幅は約40mで最低でも6千平方mは必要であると想定するが、現終点駅のあざみ野駅の構造を参考に比較した場合いかか。また、どのような構造になっているのか。

まちづくり局長 ▶ 平成29(2017)年度に実施する市域のまちづくりに関する検討の中で、駅位置のあり方について、事業化調査を行う横浜市とも連携しながら検討する。横浜市営地下鉄あざみ野駅は、東急田園都市線あざみ野駅と一体構造になっており、約5500平方m。

### 「小田急線をまたぐ駅位置は構造上も予算からも困難」

あまがさ ▶ 乗り換えの利便性を考えると、小田急線改札から最低5分以内に位置することが求められる。さらに鉄道は急に曲がることは不可能なので、建築物の基礎の位置や権利設定の交渉が困難で、建設コストに大きく響く。答弁のように既存鉄道をまたぐ場合は駅が一体構造になるなど莫大な費用が掛かり、鉄道事業者同士の調整が困難だと想像できる。現時点でのこの点は認識しているのか?

まちづくり局長 ▶ 国交省の「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」や横浜市交通局の「高速鉄道土木施設設計基準」に照らし検討することになる。横浜市と連携して技術的な課題を整理する。

### 「ルート設定は直進性が重要 極端な後戻りは速達性を侵害」

あまがさ ▶ ルート設定については、交通政策審議会の答申について国土交通省へヒアリングを実施した結果、答申に当たっては国土交通省として再度厳しく費用便益調査を行ったとの確認をとった。この鉄道プロジェクトの「評価手法マニュアル2012」を基にした評価の前提となる貨幣換算項目からみてもルート設定の基本原則は、「総所要時間の短縮」「交通費用減少」「乗換利便性向上」「車両内混雑緩和」「運行頻度向上」であり、以上の点から、直進性が重要なファクターである。極端な後戻りや先に触れたような速達性を侵害するルートは取れないと考えられますが?

まちづくり局長 ▶ 川崎市にとってメリットの大きい計画となるよう、横浜市と連携しながら検討する。

### 「川崎市が主体で取り組む調査内容と予算は」

あまがさ ▶ 川崎市としては主体的に何をどのように調査するのか?また、その予算は?

まちづくり局長 ▶ 横浜市が平成26(2014)年度から2年間で行った調査結果を川崎市としても共有して、横浜市と共同で審議会に提案した路線。事業化判断も緊密に連携して必要な予算確保に努める。また協調して進められるよう、工程表を作り出し、効率的に進める。

- 1988年10月11日に初めて議会で質問:1988年7月、運輸政策審議会の答申に川崎縦貫高速鉄道と羽田アクセスが輸送政策審議会の答申に盛り込まれたばかりで、横浜市営地下鉄3号線については全く眼中にない答弁。
- 1992年 議会質問:新都心としての新百合ヶ丘周辺の機能強化のために緊急課題として、次期の運輸政策審議会の答申に横浜市営地下鉄3号線延伸を要望路線とするように横浜市との協議開始を訴える。
- 1993年3月 横浜市営地下鉄3号線の「新横浜~あざみ野」間開業
- 1997年9月 高橋市長に運輸政策審議会への働きかけを認めさせる:「雨笠さんがしつこく言うので横浜市営地下鉄3号線の延伸も川崎側から方針の1つとして運輸政策審議会に働きかける。あくまでも優先順位一番は川崎の地下鉄ですよ」と。
- 1999年 市議会質問:3号線の延伸を川崎縦貫高速鉄道と同レベルですべきと指摘。同時に7,000億円超は採算上厳しいことを指摘。初めて新百合ヶ丘~羽田バス直行便の必要性と実現について質問
- 2000年1月 運輸政策審議会:答申に地下鉄延伸が位置づけられる。誰一人この問題を推進しない中、ようやく答申に乗せられたことを本当にうれしく思う。
- 2004年 阿部市長、川崎縦貫高速鉄道事業を5年程度の延期決定:2001年に阿部市長に変わり、財政問題に大きな影響をおよぼす象徴といえる川崎縦貫高速鉄道事業を、市民1万人アンケートの結果から延期。川崎市の鉄道事業の第一優先路線を失う結果に。
- 2010年 市議会質問:「川崎縦貫高速鉄道線は市域縦軸の基幹的な広域交通幹線網の一環。横浜市営地下鉄3号線は本市北部地域から新横浜駅などへの鉄道アクセスの向上等、川崎の将来を担う重要な交通基盤として位置づけたい」とトーンが変化。
- 2011年 横浜市と連絡協議会発足、開催
- 2013年1月 麻生通信:横浜市にも提出する市民アンケート実施
- 2013年2月 横浜市副市長と会談「横浜市にとって延伸計画は大切。川崎市の推進を期待」と延伸する意志を確認。
- 2013年3月 麻生通信:延伸必要90%。週2~3回以上利用は30%。行きたい場所は「新横浜」「横浜・関内」「みなとみらい」「元町中華街」と回答。
- 2013年11月 福田市長が就任:福田市長は市長選ポスターに公約として「横浜市営地下鉄3号線の延伸実現」を記載。
- 2014年1月 麻生通信:区民アンケートで、新百合ヶ丘の再開発、途中駅の設置、延伸の可否を問う。3号線延伸「最短10年で開業の見込み」。
- 2014年3月 麻生通信:588通回答。横浜市営地下鉄3号線延伸「活性化の整備推進を」。「地下鉄延伸による再整備費88%」。これをもとに予算審査特別委員会で質問。
- 2014年8月 麻生通信:地下鉄延伸の可否、路線、途中駅の設置の区民アンケート
- 2015年1月 麻生通信:延伸92%が「賛成」。新たな、安定的な収税確保に地下鉄延伸は不可欠な整備。経済効果を検証する実現可能性調査を早期にと主張。